

平成21年度全学新任教員研修（報告）

大学教育機能開発センター
加藤かおり

平成21年度の全学新任教員研修を全学教育機構・大学教育開発研究センター（現、教育・学生支援機構・大学教育機能開発センター）主催で実施した。研修は、前年度プログラムと同様の1日のオリエンテーション、および2日間の学習教育ワークショップ、そして本年度からは新たにワークショップ修了後の同僚による授業観察実施にもとづく省察をふくめた最終課題（ポートフォリオ）の提出で構成された。以下に、Ⅰ. 実施の概要、Ⅱ. 参加者からの振り返り、およびⅢ. 今後の課題をあげる。

Ⅰ. 実施の概要

1. オリエンテーション

- (1) 目的：本学の教育理念および教育システム、組織と運営体制、教職員としての倫理や、健康管理の重要性などについて理解を深めるとともに、本学の執行部との意思の疎通を図る機会とする。
- (2) 日時：平成21年9月15日（火）
9：30～16：00 *受付 9：00～
- (3) 場所：五十嵐地区総合教育研究棟B棟5階プレゼンルーム
- (4) プログラム
9：30 挨拶
齋藤 陽一 大学教育開発研究センター長
9：40 本学の目指すもの 教職員に期待すること
担当：下條文武 学長
10：10 質疑応答
10：15 組織及び運営体制の概要(人事制度も含む)
担当：山下威士理事（総務・企画担当）・副学長
10：45 質疑応答
10：50 休憩
11：00 新潟大学の教育について
担当：生田孝至理事（教育担当）・副学長
11：30 質疑応答
11：35 研究支援の概要と大学教員になったら
担当：仙石正和理事（研究担当）・副学長
12：05 質疑応答
12：10 昼食会（グループ別自己紹介）
13：50 新潟大学の財務・労務について
担当：島田正寛理事（財務・労務担当）

- 14：20 質疑応答
- 14：25 休憩
- 14：35 統合型学務情報システムについて
担当：全学教育機構 五島譲司 准教授
- 15：05 質疑応答
- 15：10 「教育開発 Online コミュニティ」Webシステムについて
担当：大学教育開発研究センター
津田純子教授
- 15：40 質疑応答
- 15：45 終了挨拶

2. ワークショップ1、2

- (1) 目的：新任の教員を対象に、学士課程教育としての教授学習のあり方および役割、目標達成型学習のための教育計画についての理解を深め、実践力の向上を図る。
- (2) 日時：ワークショップ1
第1回 平成21年9月16日（水）
10：00～17：00
第2回 平成21年9月30日（水）
10：00～17：00
ワークショップ2
第1回 平成21年11月9日（月）
10：00～17：00
第2回 平成21年11月27日（金）
10：00～17：00
- (3) 場所：総合教育研究棟 B棟5階 プレゼンルーム
- (4) 到達目標：
このプログラムの修了者には、以下の能力および態度を身につけていることが望まれる。
(知識)
① 従来の教授中心の教育と、知識基盤社会に対応した学習中心の教育との違い、および後者の今日的意義、およびそこでの教員の役割について説明する。
② 目標達成型学習について、その意味や方法を説明できるとともに、新潟大学の教育体制との関連性を明らかにする。
(スキル)
③ 目標達成型学習のための教育計画を設計する。具体的にシラバスの作成（ねらい・到達目標の設定、

成績評価方法および基準の設定など) など。

- ④ 目標達成型学習のための授業計画を設計し実行する。

(態度・価値観)

- ⑤ 学習者としての学生を尊重し、共に学びあう環境づくりを目指す。
- ⑥ 教授学習についての自分自身の目標を明らかにし、その達成を目指す。

(5) プログラム

ワークショップ1

- 10:00 開会あいさつ・今日のプログラムの目標確認
- 10:15 考察1「学習と教育(教授)」の意味と違い
新情報 知識基盤社会を背景とした学習理論、学習観の変遷
目標達成型学習の意味、本学の教育理念・教育体制とのつながりなど
考察2 学習中心の教育における教員の役割、課題
- 12:10 昼食・休憩
- 13:00 目標達成型学習のための教育計画
考察3 シラバスとは何か
実習 教育計画の実習
- 14:35 休憩
- 14:50 教育計画について全体討議
全体ふりかえり
次回「学習教育ワークショップII」の案内と課題
- 17:00 終了

ワークショップ2

- 10:00 開会あいさつ・今日の目標およびスケジュールの説明
- 10:20 ミニ授業のビデオ撮影&授業観察・ピアレビューの実施
- 12:30 昼食
- 13:30 討議「学生の理解を深める」、「学生に考えさせる」授業プランづくり
- 14:15 作業 各自プランづくり
- 14:45 休憩
- 15:00 グループ内で各自の新プランの発表
- 16:30 全体ふりかえり
最終課題の説明
- 17:00 終了

3. 中間課題および最終課題

(1) 中間課題

- ① ワorkshop IIで実施するマイクロティーチング(10分間のミニ授業)の準備をする。
- ② 同分野の先輩教員の授業を、授業観察のガイドラインおよび観察シートにもとづいて観察する。

- ③ 「私の教育哲学・信念」を作成する。

(2) 最終課題

- ① ワorkshop修了後、同僚の教員に自分自身の授業を観察してもらいコメントをとる。その結果をふまえて、新任教員研修をととして学習した成果をポートフォリオにまとめる。

II. 参加者の振り返り

参加者には各ワークショップ参加後に(1)最初に期待したこと(目標)は、どのくらい達成されましたか、(2)このワークショップにどのような学習者中心のティーチングの工夫が見られましたか。(プログラムの構成、ファシリテーターの働きかけ、雰囲気作りなど)

1. 学習教育ワークショップI

- (1) 最初に期待したこと(目標)は、どのくらい達成されましたか。
- ・「何か」を求めて(期待して)いましたが、得るもの(情報)は多くあったと感じています。今日の経験は一生忘れることのできないものであると思っています。100%達成!!(教)
 - ・「学習と教育」について加藤先生の話された文脈につきまちは、ほぼ理解したと考えています。すなわち、「自ら目標認定することができ、かつ、その課題解決のためには何をどうすればよいのか見出し、実際に解決することのできる“学習者”を育てる」ことの重要性を認識しました。シラバスの作成につきまちは、実際に作業をする中で理解度が深まりました。(教)
 - ・シラバスについて、15コマ分のシナリオについてはわからなかったが概要・狙い・到達目標の違いについては理解できた。(自然)
 - ・6割くらいでしょうか。(自分の頭の中が整理できず)。もっと自ら勉強しなければいけないと感じました。目標達成型の学習の重要性・必要性を十分理解できました。(明倫)
 - ・学習者主体の教育法についての考え方・方法をよく教えていただきました。われわれの分野(歯科)では、卒業時に必要とされる知識量が明確であるため、学生に自主性のみには任せられないという側面もあります。いかに取り入れてゆくかは今後の課題だと思います。(医歯)
 - ・特に授業の質保証バックグラウンドについて、さりながら聞いてよかったです。(自然)
 - ・ネットワークづくりの第一歩として異分野の先生方とゆっくりたくさん話が出ました。達成です。(教)
 - ・1日来たかいはありました。(医)
 - ・現在の北大教育の理念と基本方針はある程度理解

- できたと思う。(自然)
- ・次回達成されると思う。(教)
 - ・ほぼ達成しました。とりわけ、何に重点を置いて大学教育を実践していくのかということ(すなわち、学習者を育成する)を理解しました。(教育)
 - ・期待以上・予想以上の体験ができました。目標が達成できたかは?ですが……。 (教育)
 - ・目標達成という点では難しいものもありますが、考え直す・理論的に考える(加藤先生から講義いただく)という機会はとても良かった。(医学部医学科)
 - ・具体的なアドバイスを期待していたが、それは達成されたと思う。(教育)
 - ・授業方法に正解はない??ということが分かった。いろいろ参考になる授業のあり方を知ることができましたので試行しながら改善していきたいと思えます。(理)
 - ・授業構築のノウハウを知るといって点ではだいぶ参考になりました。(人文)
- (2) このワークショップにどのような学習者中心のティーチングの工夫が見られましたか。(プログラムの構成、ファシリテーターの働きかけ、雰囲気作りなど)
- ・何故かわかりませんが印象に残る工夫を気づかせないところがすごいと思えます。(教)
 - ・机と椅子の配置からはすぐにグループディスカッションがあることを察しました。また、多くの作業(議論、ライティング、発表)が用意されており、時間はあっという間に過ぎました。また、加藤先生の話す早さが丁寧でわかりやすかったと思えます。声量もO.K。(教)
 - ・全てにおいて工夫がされていたと思う。ワークショップそのものであった。(自然)
 - ・まず、部屋の雰囲気が明るくてよかった。テーブルの配置も工夫されていて緊張感を与えないと感じた。加藤ファシリテーターの笑顔と歯切れのよい進行は参加者にやる気を起こさせた。また、的確な反応、アドバイスは参加者にとって理解しやすい。(明倫)
 - ・学生に何らかの作業をしてもらうことは有効だと感じました。私の学生時代には授業中の飲み物は許されませんが……今日のように飲み物があると学生さんもリラックスできるかもしれません。(医歯)
 - ・学生へのモチベーション向上の手伝いを私たちが当事者となって実際に行なうような二重構造が面白かったです。(自然)
 - ・参加者中心になるにはファシリテーターのフェイダアウトが重要と捉えています。うまく構成されていて感激しました。(教)
- ・例はすべて工夫として満たされていると思います。(医)
 - ・学習者中心の活動への働きかけは良かったが、もう少しその結果に対するdiscussion & 評価があったほうがいいと思う。(何を意図して、あるは期待されていたのかがよくわからない点があった。)(自然)
 - ・グループの多用、書かせるなど。(教育)
 - ・実践を通しての学習ができてよかったと思えます。(教育)
 - ・コミュニケーションを取れる時間が設定されている点はよかった。意見交換など。(教育)
 - ・プログラム構成、時間配分など十分に工夫されており感心しました。ただ、少々議論などで脱線すると申し訳なく思いました。(医学部医学科)
 - ・いづれも相当な工夫がされていました。(教育)
 - ・よく練られているプログラムだと思います。いろいろ考えさせられました。悩みはますます深まりますが、考える機会を持つということは重要と考えます。(理)
 - ・気軽に発言できる雰囲気作りが良かったです。(人文)
- (3) このプログラムをよりよくするための提案があれば、ぜひお願いいたします。
- ・プログラムに参加した人たちは素晴らしい講義やシラバスを書いているなどが分かるとよいですね。(今後)(教)
 - ・やはり思うことは新任教員のみならず年配の先生方にも必要なかもしれません。(教)
 - ・十分だと思う。特にグループの人数は議論することを前提とすれば4人程度までであろう。すべての参加者が発表の責任感を持ちながら参加できる。丸一日と思うと腰が引けるので全体のスケジュール調整で負担感を感じないような組み方であると感じた。(自然)
 - ・もっとグループ討議の回数を増やしてグループ発表を活発にする内容にしてはいかがですか。継続性をもってこういうワークショップを全学、全教員レベルで開催してほしい。(無論、県内の高等教育機関にもお声がけ頂けたら幸いです)(明倫)
 - ・良いと思えます。(医歯)
 - ・新任だけに限らずその他の教員も受けていただけるようになるの良いかと思えます。(自然)
 - ・ワークショップの様子を写真におさめて次回の時に見せてあげるとよいと思えます。(教)
 - ・他大学との合同などはとても良いと思えます。分野や学部を超えてこのようなプログラムで学内でつながることはメリットとも思えますし定期的なFDのシステムなどとして(初心者だけでなく)あるとよいかと感じます。(ただ、土日のほうが

- ・私は嬉しいですが……) (医)
 - ・次回が終わった時点で考えてみたい。(教)
 - ・今回のスタイルでよいと思います。(教育)
 - ・景氣的にあれば良いかと。(医学部医学科)
 - ・いい感じだったと思います。(教育)
 - ・自分が学生の立場で他の先生の授業を聴くのは必要だと思う。全学的に広めるべきか？ (理)
 - ・もう少し休みの頻度が多ければと…。(人文)
- (4) 他に気づかれたこと、理解されたこと、そして最後に一言！
- ・このワークショップに参加したことで、昔から続く伝統的退屈な数学の講義方法に革命を起こせたらよいと思います！ (教)
 - ・この質問、私もよくします。やはり、聞いてくれた人の本音を聞きたいですね。今日のお話、本当に参考になりました。ありがとうございました。次回も楽しみにしています。(教)
 - ・このようなワークショップを教育にも取り入れたいが人数が多いと難しい。工学部建築学科では4年生になるとそれぞれ研究室配属になって、指導教官とかなり密に付き合うことになる。その際、ゼミにワークショップ形式を取り入れることは考えてもよいという気にはなった。(自然)
 - ・これからの大学教育改革のリーダー役として我々を引っ張っていてほしいです。どなたかが言っていました(医学部の先生ですね)この活動を社会に発信してってください。(明倫)
 - ・ありがとうございました。他分野の方々とお話ができたのも有意義でした。(医歯)
 - ・現在、講義を担当しておらず多くの部分がバーチャル想像になってしまったのが残念です。まずは実践してみなければという思いを強く持ちました。(自然)
 - ・皆さん真剣に考えていると感じました。新潟大学の未来は明るいです。(教)
 - ・組織における理想と現実のギャップがまだ大きいと思う。実際に学生が受けている講義と目指す講義との間にはへだたりがある。大学の方針が学生を子ども扱いする方向に行っているのではないかという不安がある。(自然)
 - ・目標設定型の学習についてイメージが少しずつはっきりとしてきたので、次回、より明確になるといいなと思います。(教)
 - ・ありがとうございました。大変参考になりました。(教育)
 - ・最後まで大勢の人と勉強したかったです。(教育)
 - ・授業についていろいろ話せたのがなによりでした。ありがとうございました。(教育)
 - ・いろいろな分野の方と交流できる良い機会でした。我々も継続は重要ですね。(理)
 - ・大変有意義な時間でした。ありがとうございます。(人文)
- ## 2. 学習教育ワークショップII
- (1) 最初に期待したこと(目標)は、どのくらい達成されましたか。
- ・期待以上でした。大学も教員に少し自由な時間をくれて(←重要)教育研修に何回も参加できるようにして欲しい。できれば、何年後かにもう一度参加して、自分の教授法がどれだけ進歩(or後退)しているのか比べてみたい。(理)
 - ・学生への情報提供をするうえで組立てていくhowが理解できたかと思います。これが自債の授業で活かせるように自己確認をしていきたいと思います(農)
 - ・具体的な講義方法について、多くの先生方の授業を見ることにより自分の講義を組み立てる方で非常に参考になった。(農)
 - ・達成率120%。授業を持たないものにとってどの程度役立つか疑問だったが、色々な場面で応用できる内容だった。(他)
 - ・10分講義、90講義のストーリーづくりなど、これからの講義に大いに役立つと考えております。ほぼ目標達成でございます(経)
 - ・足りない部分について、より自覚が進んだと思う(人文)
 - ・120% 教員としての基本業務の研修と予想していたが、講義の進め方、学生とのコミュニケーションのとり方、ミニ講義ビデオによる自分の講義のいたらなさなど大変勉強になりました(農)
 - ・視聴者側学生の注意をひく講義、プレゼンテーションのコツと自分の弱点について、思っていた以上に自覚することができました。(医歯)
 - ・現在の大学における教育のあり方について理解できた。現場でどのように生かしていくかが重要であり、そのための研究をしっかりと行いたい。(他)
 - ・かなり達成された。(教)
 - ・コミュニケーション方法-問いかけのタイミングや内容について学びました。
 - ・学生の側に立った、レクチャーシート作成法について学びました
 - ・ミニ授業により、自分の課題が明らかになりました。(工)
 - ・十分に達成できたと思います。(経)
 - ・ほぼ全て達成されました。(経)
 - ・95%程度、残り5%はプレゼンテーションスキルについてです。(工)
 - ・何をやるのかも分かっていなかかったのが、最初期待したことというものはありませんでした。しかし、参加して得たことは多くあり、大変満足しています。(教育)

- ・最初に何が起きるのかわからなかったので具体的な目標はありませんでした。(スミマセン)しかし、自分の授業の姿を見てまた、それに対するコメントをいただけて、改良、向上のためのヒントは十分得られました。(工)
- ・どれくらい達成されたかは現時点ではわかりませんが、たくさん“気づき”がありました。次の講義の機会が少し楽しみです。(歯)
- ・80%ほど。自分の弱いところがはっきりしました。(すでに分かっていたことでしたが) どうやってそれを克服するか、それはこれからと思います。(検査部)

(2) このワークショップにどのような学習者中心のティーチングの工夫がみられましたか。(プログラムの構成、ファシリテーターの働きかけ、雰囲気づくりなど)

- ・グループ内での自由な議論。(ただし、これも時間的な余裕のなせる技?) (理)
- ・学生に対しての工夫やテクニックを紹介いただきましたが、それがまさに実証されながら進んでいくことで理解が深まりました。(農)
- ・学習者どうしのコミュニケーションが重視されていたので、実際の学生の講義の参考になった。(農)
- ・計3日間の研究のプログラム、加藤先生の教え方および運営等、たいへん工夫されており、感心いたしました。(他)
- ・出席者参加型がよろしいと考えます。グループ討議、10分講義のビデオ……など参考となりました。(経)
- ・リラックスした雰囲気でもよかった (人文)
- ・イントロダクション (学生の意欲を高める)、講義途中での学生との対話、まとめ段階での学生からの提言、予復習での繰返し学習による効果の増強 (農)
- ・学習者に対してのアイコンタクト、質問の投げかけの学習効率に対する影響が非常に大きいと感じました。(医歯)
- ・講師が一方向的に話す場面が基本的になく、学習者による発表、作業等に時間の多くを割いていた。また、ファシリテーターが適当な場面で働きかけを行うよう工夫されていた。(他)
- ・ミニ授業の実施、宿題 (私の教育哲学)、意見交換の場 (教)
- ・終始明るい雰囲気、ラストの感想の発表では皆さん口をそろえて役に立った、とおっしゃっていることはとても素晴らしいことと思います。(工)
- ・参観プログラムもあり、観察を通して他の教員から多くを学ぶことができました。適度な緊張感もありよろしいと思いました。(経)
- ・グループ分けによって横方向の議論を促進するよ

うに工夫されていた。プログラム自体も、まず全体に向けた話から始まり、最終日には、個人単位での学習(プレゼンなど)がなされていた。(経済)

- ・コーヒーの飲み放題、スナックなど気軽な雰囲気が作れていたと思います。(工)
- ・自分で行う作業が多かった。一日中で長時間でしたが、苦痛は感じませんでした。(教育)
- ・学習者が自主的に発言できる雰囲気が常にあり、学習者間で活発に意見交換できた。それが感じられないくらい自然に雰囲気ができていたのが良かった。(工)
- ・かなり自由度の高い意見交換ができる雰囲気を作っていただきました。(歯)
- ・理解したつもりですが、医学教育への応用となると難しい面があると実感しました。しかしながら、プログラムを目に見える形として構成していく中ではっきりと見えてきたものがあります。(検査部)

(3) このプログラムをよりよくするための提言があれば、ぜひお願いいたします。

- ・夏休み等の大学の通常業務がない時に行って欲しい。(理)
- ・とても楽しく学ばせていただきました。感謝だけです。提案なしですみません。(農)
- ・もう少し早い時期に開催していただくとよい。新規職員だけでなく、希望する職員には、別途計画してもらってもいいのではないかと。(農)
- ・特にありません。(他)
- ・なるべく多くの先生方に出席、参加された方がよろしいと考えます。どのようにすればたくさんの方に参加いただけるかは、むずかしいのですが…… (経)
- ・特になし (人文)
- ・参加教員が増加するよう、7~8月などの時期は如何でしょうか? (農)
- ・日程だけ、なんとかならないものでしょうか……。 (医歯)
- ・新任教員の研修はもう少し早い時期がいいと思います (他)
- ・時期の設定がやはり苦しいかもしれません (工)
- ・他大学や他の学校 (小、中、高) の参観も研修者の参考になると思います。(経)
- ・個々人のニーズが異なるのは当然のことではあるが、プレゼンのスキルを求めるニーズは多くあるように思う。よりミクロなスキルについてもカバーしていただけるとより良い研修になると思う。(経済)
- ・失敗例や成功例 (シラバス、授業計画、プレゼンなどの) などがあると良いと思います。(教育)
- ・参加者以外の授業の様子をビデオ等で見せて、良

い点、悪い点、コメントしあうというのはどうでしょう。(工)

- ・中堅者(?) (例えば任期更新ごとか) の研修もあれば良いでしょうか。(歯)
- ・和やかな雰囲気ワークショップが行われたのは、このワークショップの進行を務められた加藤先生、他スタッフの先生方のおかげだと思います。これ以上? 難しい設問です。(検査部)

(4) 他に気づかれたこと、理解されたこと、そして最後に一言!

- ・ありがとうございました。(理)
- ・学生の立場から これを実感し、忘れないでいたいと思います(農)
- ・大学教員として あらゆる面でアクティブになれそうです。(農)
- ・様々な学部先生と話し合い、考え方や中味を知ることができ、感謝します。(他)
- ・大学が、学生のために授業のあり方を考えていることは良いことです。私も、学生さんの意見に耳を傾けながら改善を進めてまいります。一方で、自分の個性は失わないようにしたいと考えております。今後ともご指導の程よろしくお願いいたします。(経)
- ・とにかく 授業は難しい。(人文)
- ・教育の大切さ、奥深さを痛感しました。今後ともよろしく御指導のほど、お願い申し上げます。(農)
- ・担当の先生方、事務の方々も、準備に非常に時間をお使いになられていたと推察します
- ・お疲れさまでした。そしてありがとうございました。(医歯)
- ・学習者中心の教育を通じて、学生のさまざまな面での成長ができるように思いました。(他)
- ・ありがとうございました。(教)
- ・今後の教育活動に役立てたいと思います!(工)
- ・参加されていない新任教員に対して是非、よびかけられて下さい。(経)
- ・為になる情報は多くありましたが、特に「レスプラン設計のプロセス」を学べたことがうれしかった。また、開始当初は「いわゆる文系と理系で違いがあるだろうから分けて研修すべきでは」と考えていたが、実際にはそうではなく、共通する部分が多いということもわかった。(経済)
- ・このプログラムのような雰囲気を授業中に作りたい

いと思います。最近は授業中の学生(教員も)の飲食はOKなのでしょうか?(工)

- ・ミニレクチャーの準備は大変でしかも苦痛でした。しかし、いい経験をしたと思っています。宿題、多い…。(教育)
- ・大変お世話になりました。高い均一なレベルを維持し、その中で個性を出していくのは難しいと感じていますが、ワークショップを通じて得られたヒントを有効に活用したいと思います。(工)
- ・人前で話すのが苦手な私にとって辛い(?) 時間でもありましたが、充実した時間でもありました。ありがとうございました。(歯)
- ・大変お世話になりました。今後ともよろしくお願い致します。(検査部)

Ⅲ. 今後の課題

ワークショップ参加の先生方からは概ね好評をいただいた。改善へのご意見としては、開催時期のことがいくつかあげられた。この件については、例年同様のご意見をいただくのであるが、学期中であれば授業で参加できない、夏休み中も昨今はさまざまなイベントがあり、いつの時期が最も好ましいのかについての判断が難しい状況である。少なくとも、オリエンテーションの部分については、もう少し早い時期の前期中に実施できるよう、次年度は計画したいと考えている。

他の改善点として、新任教員の参加だけでなく、幅広くより多くの教員の参加を促すべきであるとの指摘が複数みられた。この点については、次年度は、トピック別の小規模のワークショップを全学の教員を対象に開催することで改善していきたいと考えている。

また、今回はじめて、ワークショップ修了後に参加者自身の授業観察の実施とその結果をふまえて省察レポートを作成する課題を研修の中に取り入れた。結果的にこの最終課題までを修了した参加者は数名であった。現在は、この研修への参加が基本的に自発性にもとづく任意の参加であるため、このように参加態度に差がみられると考えられる。

現時点では、修了者には、どこまで参加し修了したかが明確に記述された参加修了証を出すことでその差異を明確に示すようにしている。今後は、この研修参加を本学における基本的な教育力の質保証の一方策として明確に位置づけていくための努力をしていきたい。